

平成15年度
平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 2003



目次

企画展	4
「横田七郎—誰も気が付かなかった彫りの美を求めて—」展	
「野町和嘉写真展—祈りの大地—」	
「幻想と幻視—混在領域と領域侵犯—」展	
「花ゆらす風、禽鳥のたわむれ——小田原藩の絵師 岡本秋暉」展	
常設展示	13
第1回常設展示 「線描について—紙の音・思考の輪郭—」	
第2回常設展示 「湘南ゆかりの作家たち」	
第3回常設展示 「湘南ゆかりの作家たち II」	
特集展示 「二つのコレクション—安藤好明・広津和郎／桃子の旧蔵作品から—」	
特集展示 「院展彫刻の一潮流—近代と伝統のはざままで—」	
教育普及	24
講座・レクチャー	
ワークショップ	
ワークショップクラブ 湘南美術散歩	
ひともの	
博物館実習	
講座・研修会の開催	
共催事業・館外活動	28
美術館共催事業	
館所蔵作品の広報活動	
研究活動	
保存・修復	26
保存・修復作品	
収蔵庫虫害調査	
収蔵・貸与	31
収蔵作品	
貸与作品	
統計	38
観覧者数	
施設利用状況	
学校団体観覧利用者数	
市民アートギャラリー利用状況	
ミュージアムホール利用状況	
市民アートギャラリー入場者の推移	
沿革	42
組織・運営	43
美術館協議会/組織/職員名簿	

企画展

横田七郎—誰も気が付かなかった彫りの美を求めて—展

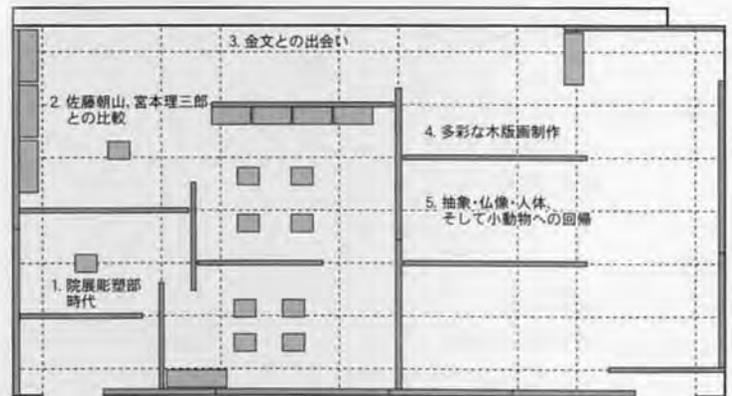
会 期 2003年4月26日（土）～6月1日（月・祝） 35日間
主 催 平塚市美術館
後 援 小田原市教育委員会、神奈川新聞社
観 覧 料 一般=500円、高校・大学生=300円、中学生以下無料
担 当 勝山 滋（当館学芸員）
観覧者数 3,501人

横田七郎（1906-2000）は、高村光雲らから始まる近代木彫史の一つの本流にいた作家であり、日本美術院の彫塑部などで活躍した彫刻家である。また大磯、鴨宮に住み、平塚や小田原近辺の学校や諸施設にモニュメントを遺した、ゆかりの作家でもある。本展では、横田七郎の初の遺作展として、木彫、ブロンズ、木版画など約127点により、たのしい彫りの世界の全貌を紹介した。横田七郎は、昭和3年に佐藤朝山（《和気清麿》（氣象庁前）、《天女像》（日本橋三越）などで知られる彫刻家）に師事、真摯に対象と向き合って制作した処女作《めざし》は、朝山に「ここに誰も気がつかない美がある」と高く評価される。

本展は、こうした自然への慈愛と敬意に満ちた初期作品をはじめ、ウィットに富んだ人物、抽象彫刻、古代文字（金文）、ブロンズ作品のマケットと、木版画、および師・佐藤朝山、兄弟子・宮本理三郎の作品10点を加え、幅広い彫りの世界を紹介した。こうした作品群から、日本の伝統的な木彫の奥深い世界が感じ取られる。



ちらし



会場図面

図録 「横田七郎展 —誰も気が付かなかった彫りの美を求めて—」

21.0×29.6cm、104頁

挨拶 福田徳樹（平塚市美術館館長）

テキスト 抄録「横田七郎氏に聞く」

千田敬一「横田七郎の日本美術院彫塑部時代—こういうものにも美はある—」

横田八郎「父の思い出—彫刻家のち時々父親—」

勝山 滋「『静けさ』と『心』の作家—横田七郎をいたんで—」

図版 123点

資料等 出品目録、横田七郎年譜

制作 文化堂印刷株式会社

発行 平塚市美術館



展示室入口



図録表紙

関連事業

学芸員による展示解説

2003年5月5日(祝) 「ここに誰も気が付かない美がある—卓上芸術の世界」

2003年5月24日(土) 「横田七郎の野外彫刻案内」

勝山 滋 (当館学芸員)

団体向けレクチャー 毎週木曜午前中 随時受付

会期中ミュージアムホールにて作家紹介のビデオを放映

主要記事

柳生不二雄「親しみある題材が新鮮」 神奈川新聞 2003年6月3日

「芸術に触って 平塚市美術館、盲学校の生徒ら招待」 神奈川新聞 2003年5月27日

田中三蔵「身近な美を彫り出した初心」 朝日新聞 2003年5月20日



会場風景

野町和嘉写真展 - 祈りの大地 -

会 期	2003年7月19日（土）～9月15日（月・祝） 51日間
主 催	平塚市美術館
協 賛	キャノン株式会社 キャノン販売株式会社 株式会社サカエヤ 株式会社サン ライフ 学校法人鶴嶺学園 富士写真フイルム株式会社
後 援	社団法人日本写真協会、神奈川新聞社
観 覧 料	一般＝600円、高校・大学生＝400円、中学生以下無料
担 当	森田英之（当館学芸担当長）
観覧者数	6,515人

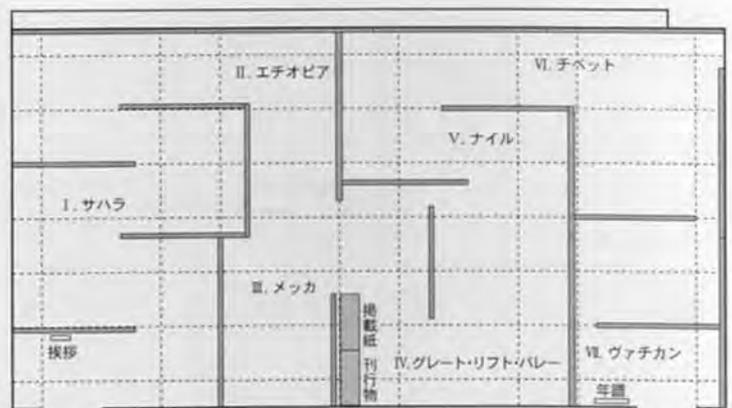
現代の国際社会におけるドキュメンタリー写真を代表する野町和嘉は、1971年フリーの写真家になって以来、サハラ砂漠、エチオピア、ナイル川、中国、モロッコ、アフリカ大地溝帯、チベット、メッカそしてヴァチカンなどを徹底取材し、その成果を次々に写真集や展覧会として精力的に発表している。

野町和嘉は、1946年、高知県に生まれ、1972年、初めてサハラ砂漠に旅をして、生命の存在を拒む極限の乾燥地帯に魅せられ、以来、大自然と生命の関わりの根元を自然科学的あるいは社会科学的な視点で、鋭いカメラワークにより美しい写真に捉えてきた。

本展覧会は、そうした野町のこれまでの写真活動の中から、厳しい大自然のもとに生存してきた人々の大地との関わり、そして神への変わらぬ帰依のヒューマンドキュメントを「祈りの大地」として、208点の写真作品で展観した。



チラシ



会場図面

図 録	「野町和嘉写真展 ー祈りの大地ー」 24.5×25.5cm、132頁
挨 拶	福田徳樹（平塚市美術館館長）
テキスト	野町和嘉「自然と神への真摯な祈り」 平木 収「精神世界のアトラスとしてー野町和嘉の核心ー」
図 版	76点
資料等	関連資料・文献、年譜、単行本、作品掲載、海外雑誌刊行物（森田英之監修）、出品作品リスト
制作	株式会社便利堂
発行	平塚市美術館

関連事業

講演会「祈りの大地」

2003年7月27日(日) 14:00～16:00

野町和嘉氏

友の会レクチャー「写真・写実」

2003年8月30日(土) 13:30～14:00

福田徳樹（当館館長）

学芸員による展示解説

2003年8月2日(土)、2003年8月8日(金)、

2003年8月22日(金)、2003年8月30日(土)、

2003年9月7日(日) 14:00～15:00

森田英之（当館学芸担当長）

団体向けレクチャー 毎週木曜午前中 随時受付



展示室入口

主要記事

「生き、祈る人間の姿」 神奈川新聞 2003年7月19日

「輝く平塚市美術館」 神静民報 2003年9月12日

「神と向き合う人間像」 高知新聞 2003年7月23日

「“大地”の写真展」 読売新聞 2003年8月15日



ギャラリートーク



講演会

幻想と幻視－混在領域と領域侵犯－展

会 期 2003年10月11日（土）～11月23日（月・祝） 38日間
 主 催 平塚市美術館
 観 覧 料 一般＝400円、高校・大学生＝200円、中学生以下無料
 担 当 尾崎真人（当館学芸員）
 観覧者数 3,074人

想像あるいは幻想的世界を表現するものを幻想藝術という。また現代美術のイリュージョン（錯覚的幻覚）も幻想藝術の展開と考えることができる。ファンタジーのあちら側の世界（神話的、宗教的、悪魔的、神秘的）のみを描く作品と、現実とファンタジーの両世界を描く「通路」のある作品と、二種類の創作者視点や見る側の視覚位置が美術作品にはある。本展覧会はこうした作家と作品世界の幻想へのアプローチを読むことにより、作家の想像力と作品そして観覧者の位置世界を考えた。



ちらし



会場図面

図 録

「幻想と幻視 混在領域と領域侵犯」

24.0×25.0cm、47頁

挨 拶 福田徳樹（平塚市美術館館長）
 テキスト 尾崎真人「『幻想美術』かく戦えり」

図 版 65点

資 料 等 日本における<イリュージョン><シュルレアリスム><幻想>のテーマ展略年譜、作家略歴、主な個展、主なグループ展、謝辞

出品作品リスト

制 作 光村印刷株式会社

発 行 平塚市美術館



図録表紙



展示室入口



ギャラリートーク

関連事業

友の会レクチャー 「ローカル・伝統」

2003年8月30日(土) 13:30~14:00

福田徳樹(当館館長)

学芸員による展示解説 ギャラリートーク

2003年10月12日(日)、18日(土)、26日(日)、11月8日(土)、15日(土)、

23日(日・祝) 14:00~15:00

尾崎真人(当館学芸員)

団体向けレクチャー 毎週木曜日午前中 随時受付

主要記事

尾崎真人「大島哲以 幻想世界で現実を表現」 神奈川新聞 2003年10月2日

田中三蔵「「幻想/幻視」の可能性探る」 神奈川新聞 2003年11月4日

柳生不二雄「不思議な世界を視覚化」 神奈川新聞 2003年11月4日

花ゆらす風、禽鳥のたわむれ——小田原藩の絵師 岡本秋暉展

会 期	2004年2月7日（土）～2004年3月21日（日） 38日間
主 催	平塚市美術館
協 賛	財団法人寺島文化会館
後 援	小田原市教育委員会、神奈川新聞社
観 覧 料	一般＝800円、高校・大学生＝600円、中学生以下無料
担 当	郡司亜也子（当館学芸員）
観覧者数	4,721人

岡本秋暉（おかもと・しゅうき1807-1862）は幕末の花鳥画家として、まず関東文人画の末流とくに渡辺崋山の門人としての理解がなされ、ついで大西圭斎^{けいさい}に師事したこと、小田原藩士だったこと等が明らかになったが、その基準的作例が位置づけられず、その画業と画風展開についての作品に即した実証的評価は充分とは言えない状況だった。本展は先行する研究や岡本秋暉をとりあげた展覧会をふまえつつ、秋暉作品の基礎調査による比較検討を行い、より広く、より優れた作品を集めた秋暉展として準備された。会場では第一章 前期の作品、第二章 大画面制作、第三章 干支印作品群とその周辺、第四章 後期の作品、第五章 制作と交友、以上五章により、初公開作品約半数を含む秋暉の屏風、板戸、軸、卷子など80点を展示、その画業と作品の全容を見直し、江戸時代後期の長崎派画風を展開させた主要な画家として、その全体像を紹介した。

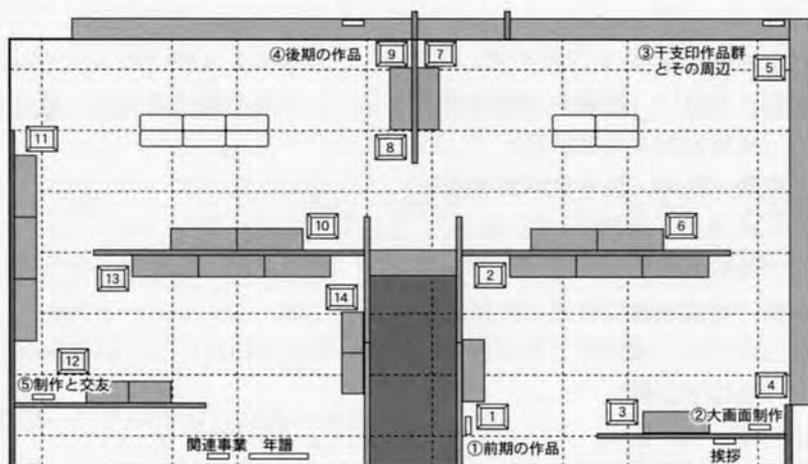
本展開催により、秋暉の作品制作の領域が濃彩から墨画、大画面から小画面まで、花鳥画のほか走獣画や藻魚図、まれには人物画を含んでおり、御用絵師ではないが画家としての幅広い活動を行っていたこと、また風や光のなかであそぶ禽鳥や走獣のあいだで交わされる視線や感情の交錯の表現がその優れた美質であることがうかがえた。遠在の作品などは紹介できなかったが、岡本秋暉という画人が各方面から再評価、また再検討される機会となったようである。



ちらし



ちらし



会場図面

図録 「花ゆらす風、禽鳥のたわむれ—小田原藩の絵師 岡本秋暉展」

A4変形版 (29.7×22.7cm)、216頁

挨拶 福田徳樹 (平塚市美術館館長)

論文 郡司亜也子「岡本秋暉の画業と作品」

図版 80点

資料等 出品作品解説 (郡司亜也子)、関連主要資料・文献、
年譜 (郡司亜也子編)、出品作品署名・印章、
出品作品目録、協力者一覧

制作 光村印刷株式会社

発行 平塚市美術館



図録表紙



河野元昭氏による講演会



展示室

関連事業

講演会「岡本秋暉と江戸絵画」

2004年2月29日(日) 14:00～15:30

河野元昭氏(東京大学文学部教授)

友の会レクチャー「想像・絵画—岡本秋暉展案内—」

2004年3月6日(土) 14:00～15:00

福田徳樹(当館館長)

学芸員による展示解説「岡本秋暉の画業と作品について」

2004年2月14日(土)、2004年2月28日(土)、2004年3月13日(土) 14:00～15:00

郡司亜也子(当館学芸員)

団体向けレクチャー

主要記事

郡司亜也子「小田原藩の絵師 岡本秋暉の全体像に迫る 平塚市美術館で企画展」 神奈川新聞 2004年2月12日

草薙奈津子「近代に通じる複層的空間の形成」 東京新聞 2004年2月21日

田中三蔵「幕末の地方画家の不思議な力」 朝日新聞 2004年3月16日

「絵筆を持った小田原藩士 岡本秋暉の復活」 芸術新潮第652号 2004年4月1日

常設展示・特集展示

今年度の常設展示では3回の展示替えをおこなうとともに、特集展示を2回おこなった。「二つのコレクション - 安藤好明・広津和郎/桃子の旧蔵作品から -」、「院展彫刻の一潮流 - 近代と伝統のはざままで -」の特集展示を開催した。

開館日数	一般			高校・大学生			小・中学生	未就学	常設展 入場者合計
	観覧者数	有料者	無料者	観覧者数	有料者	無料者	観覧者数	観覧者数	
305	13,949	5,967	7,982	481	437	44	3,283	245	17,958人

□第1回常設展示 2003年6月11日～2003年9月21日

「線描について一紙の音・思考の輪郭」というタイトルで、身近な表現である線描の表情を考えてみた。色々な意味を持つ線描表現を分類し、どのように線描表現がなされているかをみていった。線描に託された作者の気持ちを読み解くことで作品にアプローチする体験をしてもらった。そのため、線描表現を I. 印象 II. 観察 III. 構想 IV. 構図 V. 表現の5つに分類した。

観覧料：一般200円、高校・大学生100円、中学生以下無料

場 所：展示室Ⅱ全室

出品点数：100点

担 当：尾崎真人

関連事業：ギャラリートーク 尾崎真人

6月15日(日)、6月22日(日)、6月28日(土)、7月6日(日)、7月12日(土)、7月20日(日)、
7月26日(土)、8月3日(日)、8月9日(土)、8月17日(日)、8月23日(土)、8月31日(日)、
9月6日(土)、9月14日(日)、9月21日(日) 15:00～16:00

□第2回常設展示 2003年9月24日～2004年1月18日

「湘南ゆかりの画家たち」として、所蔵作品のなかから鎌倉、平塚、真鶴、大磯にゆかりの深い作家、黒田清輝、朝井閑右衛門、真垣武勝、鳥海青児、山下大五郎、田中真洲、芝山吉邦、安田靉彦、山本丘人ら21名を展示。

観覧料：一般200円、高校・大学生100円、中学生以下無料

場 所：展示室Ⅱ全室

出品点数：68点(特集展示とあわせ101点)

担 当：勝山 滋

関連事業：ギャラリー・トーク 勝山滋 11月3日(祝)

□第3回常設展示 2004年1月20日～2004年3月28日

「湘南ゆかりの作家たちⅡ」として、所蔵作品のなかから小田原、箱根湯元、平塚、茅ヶ崎にゆかりの深い作家を展示した。主な出品作家は、今村紫紅、横田七郎、二見利節、近藤弘明、井上三綱(以上小田原近辺)、平賀敬(箱根湯元)、工藤甲人、鳥海青児、真垣武勝、宮下貞一郎(平塚)、鈴木至夫、萬鉄五郎、森田勝、小山敬三(茅ヶ崎)など。

観覧料：一般200円、高校・大学生100円、中学生以下無料

場 所：展示室Ⅱ全室

出品点数：95点

担 当：勝山 滋

関連事業：作品解説会 勝山滋

□特集展示 院展彫刻の一潮流－近代と伝統のはざままで－

2003年9月24日～2004年1月18日

日本美術院の彫塑部は、1914年から1961年まで存続した美術団体である。当初木彫と塑造とを区別せずに研究し、自由な気風で、すぐれた作家を輩出した。本特集では、院展の木彫、塑造作品をあわせ、7作家39点を展示し、異なる素材をつうじて、近代と伝統という問題に向き合った作家たちをしのんだ。

担 当：勝山 滋

関連事業：作品解説会「日本美術院彫塑部 小品彫刻の流れ」 勝山滋 11月3日(祝) 14:00より

□特集展示 二つのコレクション －安藤好明・広津和郎／桃子の旧蔵作品から－

2004年1月20日～2004年3月28日

市内のコレクター安藤好明、小説家であった広津柳浪(りゅうろう)、和郎、桃子のコレクションを一括展示した。当コレクションの一括展示は6年ぶりとなった。

担 当：勝山 滋

関連事業：作品解説会



第1回常設展示 展示風景



第2回常設展示 展示風景



特集展示 院展彫刻の一潮流 展示風景

■線描について—紙の音・思考の輪郭—

No.	作家名	作品名	*は寄託作品 **は個人蔵作品	制作	材質・技法
I	印象	旅の印象、思いつきの線、遊びの線			
1	鳥海青児	ベルリン 雨の街角の果物売		1930年	鉛筆、水彩・紙
2	鳥海青児	ベルリンの公園		1930年	鉛筆、水彩・紙
3	鳥海青児	ベルリンにて		1930年	鉛筆・紙
4	鳥海青児	シベリアの駅		1930年	鉛筆、オイルパステル、水彩・紙
5	鳥海青児	シベリア線キローク駅		1930年	鉛筆、コンテ、水彩・紙
6	鳥海青児	シベリアの雪路		1930年	鉛筆・紙
7	鳥海青児	シベリア風景(ロシア製スケッチ帳)		1930年	鉛筆・紙
8	鳥海青児	シベリア駅路の雪		1930年	油彩・キャンパス
9	鳥海青児	北海道風景		1928年	コンテ・紙
10	鳥海青児	北海道風景		1928年	コンテ・紙
11	鳥海青児	北海道風景		1928年	コンテ・紙
12	森田勝	「美校在学中スケッチ帳(49葉)」		1927年	鉛筆・紙
13	森田勝	「美校在学中スケッチ帳(29葉)」		1927年	鉛筆・紙
14	森田勝	「美校在学中スケッチ帳(44葉)」		1928年	鉛筆、墨・紙
15	森田勝	「美校在学中スケッチ帳(40葉)」		1929年	鉛筆、墨、コンテ・紙
16	森田勝	「北海道素描帳(30葉)」		1928年	鉛筆・紙
17	森田勝	「北海道素描帳(33葉)」		1928年	鉛筆・紙
18	森田勝	「紀州旅行スケッチ(21葉)」		1927年	鉛筆、水彩・紙
19	森田勝	「滞仏中スケッチ帳(60葉)」		1929-35年	鉛筆・紙
20	森田勝	「滞仏中スケッチ帳(77葉)」		1929-35年	鉛筆・紙
21	森田勝	「滞仏中スケッチ帳(13葉)」		1929-35年	鉛筆・紙
22	森田勝	「滞仏中スケッチ帳(24葉)」		1929-35年	鉛筆、インク、コンテ・紙
23	森田勝	「滞仏中スケッチ帳(7葉)」		1929-35年	鉛筆・紙
24	森田勝	「滞仏中スケッチ帳(27葉)」		1929-35年	鉛筆、インク、コンテ・紙
25	河野通勢	「歌舞伎スケッチ・菅原伝授手習鑑など」*		1926年	インク、水彩(一部)・紙
26	河野通勢	「歌舞伎スケッチ・安政奇聞佃夜嵐など」*		1926年	インク・紙
27	河野通勢	「歌舞伎スケッチ・鬼次拍子舞など」*		1927年	インク・紙
28	河野通勢	「王子電車車中スケッチなど」		不詳	鉛筆・紙
29	金子保	八ヶ岳(清里)		1943年	インク・紙
30	金子保	鵜沼海岸		1976年	インク・紙
31	金子保	「オリンピック会場スケッチ」		1964年	鉛筆、水彩・紙
32	二見利節	「四国紀行 車中・船中スケッチ」		1973年	鉛筆、パステル(一部)・紙
33	倉田三郎	鳥海青児の寝顔		1936年	オイルパステル・紙
34	倉田三郎	鳥海青児の寝顔		1936年	オイルパステル・紙
35	横堀角次郎	鳥海青児**		不詳	鉛筆・紙
36	鳥海青児	横堀角次郎の昼寝		1926-30年	鉛筆・紙
37	岸田劉生	金子保		1909年	鉛筆・紙
38	原精一	アサクサ		不詳	コンテ・紙
39	小熊秀雄	目白駅付近**		1934-40年	鉛筆・紙
40	安井曾太郎	東京駅前朝		不詳	鉛筆、色鉛筆・紙

No.	作家名	作品名 *は寄託作品 **は個人蔵作品	制作	材質・技法
41	菅野圭介	ハイデルベルク哲学橋**	1952年	墨・紙
42	瀬島好正	「奈良・京都スケッチ」	1968年	鉛筆、水彩・紙
43	二見利節	「海岸風景」*	1955-59年	インク・紙

II 観察 対象把握、探求、形の形成

44	黒田清輝 / 絵 合田清 / 彫	日清戦争**	1895年	エッチング・紙
45	金子保	「関東大震災スケッチ」	1923年	鉛筆、水彩・紙
46	保田龍門	人体素描	1920-23年	鉛筆・紙
47	保田龍門	人体素描	1920-23年	色鉛筆・紙
48	保田龍門	人体素描	1912-25年	鉛筆、水彩・紙
49	保田龍門	人体素描	1920-23年	コンテ・紙
50	保田龍門	人体素描	1920-23年	コンテ・紙
51	保田春彦	人体素描	1950-60年	インク・紙
52	保田春彦	人体素描	1950-60年	インク・紙
53	保田春彦	人体素描	1950-60年	コンテ・紙
54	保田春彦	人体素描	1950-60年	コンテ・紙
55	保田春彦	人体素描	1950-60年	コンテ・紙
56	岸田劉生	自画像 23, July	1917年	茶コンテ・紙
57	河野通勢	自画像 Jan22	1918年	鉛筆・紙
58	河野通勢	自画像 Jan23	1918年	鉛筆・紙
59	河野通勢	自画像 Jan24	1918年	インク・紙
60	河野通勢	自画像 Feb 1	1918年	鉛筆・紙
61	河野通勢	自画像 Feb 2	1918年	鉛筆・紙
62	河野通勢	自画像 Mar19	1918年	鉛筆・紙
63	河野通勢	自画像 Mar20	1918年	鉛筆・紙
64	鳥海青児	自画像	1959年頃	鉛筆・紙
65	鳥海青児	自画像	1929年	コンテ・紙
66	保田龍門	娘のいる自画像	1928年頃	鉛筆・紙
67	鳥海青児	男像 (森田勝の顔)	1927年	コンテ・紙
68	鳥海青児	男の顔 (森田勝)	1929年	コンテ・紙
69	鳥海青児	今東光像	1939-44年	鉛筆・紙
70	森川ユキエ	二見利節像	不詳	鉛筆・紙
71	原精一	林武	1951年	コンテ・紙
72	河野通勢	ターナーの線は自然の通り動いた*	1916年	鉛筆・紙
73	河野通勢	語れ語れ、生解者は潰へ行くと*	不詳	インク・紙
74	江添栄一郎	砂丘上の船 (平塚の海辺から)	1952-53年	鉛筆・紙
75	江添栄一郎	平塚の海辺 砂丘上の船	1952-53年	鉛筆・紙
76	井上三綱	麦畑	不詳	インク・紙
77	井上三綱	畑の在る風景	不詳	インク・紙
78	瀬島好正	「創作スケッチ」	1971年	鉛筆、水彩・紙
79	瀬島好正	「創作スケッチ」	1976-77年	水彩、紙
80	國領経郎	砂の歌 I	1970-85年	コンテ・紙

No.	作家名	作品名	*は寄託作品 **は個人蔵作品	制作	材質・技法
81	國領経郎	砂の歌Ⅱ		1970-85年	コンテ・紙
82	國領経郎	跡		1970-80年	鉛筆・紙
Ⅲ 構想 着想の定着、思想の断片					
83	保田龍門	作品		1930年頃	鉛筆・紙
84	福沢一郎	秩父山塊 冬山(石炭紀一二畳紀)**		1944年	鉛筆・紙
85	末松正樹	作品**		1944年	鉛筆・紙
86	原精一	玉子のある静物		1956年	鉛筆・紙
87	原精一	玉子のある静物		1956年	鉛筆・紙
88	原精一	玉子のある静物		1956年	油彩・キャンバス
89	原精一	バレリーナF		1955年頃	鉛筆・紙
90	原精一	バレリーナF		1955年頃	油彩・キャンバス
91	鳥海青児	顔をかくす		1955年頃	コンテ、オイルパステル、油彩・紙
92	鳥海青児	顔をかくす(スケッチ)		1956年頃	鉛筆・カレンダー裏紙
93	井上三綱	馬習作		不詳	鉛筆・紙
94	井上三綱	水辺の馬		1951年	墨、弁柄、胡粉・キャンバス
95	シルヴィア・ミニオ＝ バルウエルロ・保田	聖女生涯の浮彫り 第4場面エスキース		1980年	インク、コラージュ・紙
96	シルヴィア・ミニオ＝ バルウエルロ・保田	聖女生涯の浮彫り 第5場面エスキース		1980年	インク、墨・紙
97	シルヴィア・ミニオ＝ バルウエルロ・保田	聖女生涯の浮彫り 第6場面エスキース		1980年	インク・紙
98	シルヴィア・ミニオ＝ バルウエルロ・保田	聖女生涯の浮彫り構想図		1980年	インク・紙
99	シルヴィア・ミニオ＝ バルウエルロ・保田	聖カタリナ像の生涯の浮彫り		1980年	ブロンズ
100	保田春彦	デッサン		1990-99年	鉛筆、インク、フェルトペン・紙
101	保田春彦	デッサン		1990-99年	鉛筆、インク、フェルトペン・紙
102	保田春彦	デッサン		1990-99年	鉛筆、インク、フェルトペン・紙
103	保田春彦	壁に沿う形			鉄、石
104	四谷十三雄	静物(壺と水差)		1958-63年	鉛筆・紙
105	四谷十三雄	静物(壺と水差)		1958-63年	鉛筆・紙
Ⅳ 構図 構築、運動、表情					
106	佐藤多持	水芭蕉		1954年	油彩・キャンバス
107	佐藤多持	作品曲12		1957年	墨、岩絵の具・紙
108	佐藤多持	水芭蕉に関する作品3		1960年	墨、顔料、アルミ箔・紙
109	森川 錠	白い階段		1958年	油彩・キャンバス
110	前田青邨	秋風五丈原		1920年	墨・絹
111	安田靉彦	赤星母堂像畫藁		1943年	墨・紙
112	安田靉彦	赤星母堂像下絵		1943年	墨、岩絵の具・紙
113	安田靉彦	赤星母堂像下絵		1943年	墨、岩絵の具・紙
114	安田靉彦	赤星母堂像下絵		1943年	墨、岩絵の具・紙

No.	作家名	作品名	*は寄託作品 **は個人蔵作品	制作	材質・技法
115	安田 毅彦	赤星母堂像		1943年	墨、岩絵の具・紙
116	益井 三重子	T氏像大下図**		1952年	墨、岩絵の具・紙
117	益井 三重子	T氏像部分下図**		1952年	墨・紙
118	益井 三重子	T氏像スケッチ**		1952年	色鉛筆・紙
119	益井 三重子	T氏像**		1952年	墨、岩絵の具・紙
120	四谷 十三雄	コンポジション		1958-63年	油彩・キャンバス

V 表現 造形の線、想起の線

121	駒井 哲郎	ラジオ アクティビティ イン マイルーム**		1950年	メゾチント、エングレーヴィング・紙
122	菅野 陽	おどり (四人)		1959年	エッチング、サルファチント、アクワチント・紙
123	菅野 陽	あるくむれ		1957年	リトグラウンドエッチング、サルファチント、アクワチント・紙
124	平賀 敬	雨*		1963年	油彩・キャンバス
125	小関 利雄	白に		1960年	油彩・ベニヤパネル
126	常盤 大空	黒鷲 カラフラン		1970年	顔料・紙
127	佐藤 多持	黄85		1988-89年	墨、顔料・紙
128	伊藤 彬	夢のいりぐち		1987年	顔料・紙
129	伊藤 彬	帰林帰山		1994年	墨、木炭・麻紙
130	瀬島 好正	人4人		不詳	油彩・キャンバス
131	工藤 甲人	樹木のうた		1956年	顔料・紙
132	平野 杏子	静寂*		1963年	油彩・キャンバス
133	島田 しづ	時潮		1992年	水彩・ボード
134	井上 三綱	風の中の牛		1966年	墨、コラージュ・紙
135	二見 利節	無題		不詳	コンテ、水彩・紙
136	Paul Wunderlich	横たわる女体*		不詳	水彩、クレヨン・紙
137	高松 次郎	この七つの文字*		1970年	コピー、シルクスクリーン・紙
138	高松 次郎	These three words*		1970年	コピー、シルクスクリーン・紙
139	古川 恂	星と子供		1964年	油彩・キャンバス

■湘南ゆかりの作家たち

No.	作家名	作品名	*は寄託作品 **は個人蔵作品	制作	材質・技法
I 鎌倉 - 黒田 清輝・朝井 閑右衛門・松本 節・森川 鎭 ほか -					
1	安藤 能 亘	鏡の国のアリス		1972年	油彩・キャンバス
2	黒田 清輝	波打ち際の岩		1896年	油彩・板
3	黒田 清輝	由比ヶ浜		1897年	油彩・板
4	金沢 重治	風強き浜辺		1930年	油彩・キャンバス
5	朝井 閑右衛門	廃園に於て		1926年	油彩・キャンバス
6	朝井 閑右衛門	悪霊と道化		1972年	油彩・紙
7	松本 節	廃苑の夏		1934年	油彩・キャンバス
8	松本 節	つた繁る頃		1933年	油彩・キャンバス
9	松本 節	瑞泉寺		1934年	油彩・キャンバス
10	松本 節	由比ヶ浜		1938年	油彩・キャンバス
11	森川 鎭	大根		1926年頃	油彩・キャンバス
12	森川 鎭	果実図		1926年	油彩・キャンバス
13	森川 鎭	卓上盛果		1926年	油彩・キャンバス
14	森川 鎭	果子図		1928年	油彩・キャンバス
15	森川 鎭	歎喜		不詳	油彩・キャンバス
II 平塚 - 山下大五郎・真垣 武勝・鳥海 青児・田中 真洲・芝山 吉邦 ほか -					
16	山下 大五郎	平塚風景		1930年	油彩・キャンバス
17	山下 大五郎	早春		1941年	油彩・キャンバス
18	平野 杏子	青い太陽		1987年	油彩・キャンバス
19	真垣 武勝	パリの橋		1955年	油彩・キャンバス
20	真垣 武勝	セーヌ川のノートルダム		1957年	油彩・キャンバス
21	真垣 武勝	ロンドン ウェストミンスター橋観光船発着所		1967年	油彩・キャンバス
22	真垣 武勝	ライン川観光船		1967年	油彩・キャンバス
23	真垣 武勝	スペイン クエンカの古い家		1969年	油彩・キャンバス
24	真垣 武勝	エーゲ海 ミコノス島		1973年	油彩・キャンバス
25	鳥海 青児	水田		1936年	油彩・キャンバス
26	鳥海 青児	石だたみ (印度ベナレス)		1962年	油彩・キャンバス
27	鳥海 青児	段々畑		1952年	油彩・キャンバス
28	鳥海 青児	沖縄風景		1940年	油彩・キャンバス
29	田中 真洲	藤田東湖 正気歌		1932年	紙本墨書
30	田中 真洲	忍々耐々		1945年	紙本墨書
31	田中 真洲	君が代		不詳	紙本墨書
32	田中 真洲	いろは		1962年	紙本墨書
33	田中 真洲	篆隸楷行草かな		1966年	紙本墨書
34	田中 真洲	新年御題 魚		1967年	紙本墨書
35	田中 真洲	無為		1970年	紙本墨書
36	田中 真洲	鼠		1972年	紙本墨書
37	国領 経郎	海景		1968年	油彩・キャンバス
38	国領 経郎	寂夏		1983年	油彩・キャンバス

No.	作家名	作品名	*は寄託作品 **は個人蔵作品	制作	材質・技法
39	工藤 甲人	残景図		1986年	紙本着色
40	工藤 甲人	杉		1983年	紙本着色
41	工藤 甲人	次郎雲		1970年	紙本着色
42	本荘 赳	水源地		1962年	油彩・キャンバス
43	本荘 赳	砂丘晩秋		1969年	油彩・キャンバス
44	本荘 赳	湖畔早晨*		1978年	油彩・キャンバス
45	本荘 赳	建てる (エチュード)		1982年	油彩・キャンバス

・平塚の陶芸家 芝山吉邦の軌跡

46	芝山 吉邦	大花瓶焼き目文様		1959年	陶磁
47	芝山 吉邦	彩霞		1982年	陶磁
48	芝山 吉邦	象		1984年	陶磁
49	芝山 吉邦	方象		1992年	陶磁
50	芝山 吉邦	汐の詩		1980年	陶磁
51	芝山 吉邦	樹精		1989年	陶磁
52	芝山 吉邦	積容		1994年	陶磁

Ⅲ 真鶴 - 三宅 克己・中川 一政 -

53	三宅 克己	郊外 戸山原*		1911-19年	水彩・紙
54	中川 一政	椅子の少女		1916年	油彩・キャンバス
55	中川 一政	薔薇		不詳	油彩・キャンバス
56	中川 一政	椅子の女		1941年	油彩・キャンバス

Ⅳ 大磯 - 三岸 節子・山本 丘人 ほか -

57	三岸 節子	インカの壺 (太陽讃歌)		1968年	油彩・キャンバス
58	佐藤 晨	旅の終りに		1971年	顔彩・キャンバス
59	山本 丘人	入江		1954年	紙本着色
60	山本 丘人	春近し		1952年	紙本着色
61	山本 丘人	島の女		1935年頃	絹本着色
62	安田 靱彦	孔子観河		1940年	紙本着色
63	安田 靱彦	宮本二天像		1933年	絹本着色
64	田中 穂年	山水図*		1914年	絹本着色

第3回常設展示 2004年1月20日～2004年3月31日

■湘南ゆかりの作家たち II

特集展示 二つのコレクション -安藤好明・広津和郎/桃子の旧蔵作品から-

No.	作家名	作品名	*は寄託作品 **は個人蔵作品	制作	材質・技法
・広津コレクション					
1	歌川国貞	澤村田之助尾上松助		江戸時代後期	木版・紙
2	恩地孝四郎	コンポジション		1953年	リトグラフ・紙
3	恩地孝四郎	ポエムNo. 21		1953年	木版・混合技法・紙
4	須田剋太	文楽おそめ		1967年	パステル、水彩・紙(色紙)
5	須田剋太	冬瓜		1967年	パステル、水彩・紙(色紙)
6	須田剋太	祝猿		1968年	パステル、水彩・紙(色紙)
7	別府貫一郎	霧のベネツィア		1955年	油彩・キャンバス
8	牧野虎雄	庭小径(秋)		1936年	油彩・板
9	林俊衛	白い橋と緑樹		1921-28年	油彩・キャンバス
10	松山文雄	肥料会社		不詳	油彩・板
11	鍋井克之	琵琶湖のヨット		1950年	油彩・キャンバス
12	鍋井克之	勝浦温泉		不詳	油彩・キャンバス
13	上野山清貢	牛		1928年	油彩・板
14	高畠達四郎	樹木・箱根連山		不詳	油彩・キャンバス
15	小出楢重	めでたき風景		1926年	紙本墨画淡彩
・安藤コレクション					
16	富山妙子	ヒンズクシュー山脈			油彩・キャンバス
17	高田力蔵	朝霧のノートルダム		1967年	油彩・キャンバス
18	高田力蔵	朝霧のシテ(パリ)		1966年	油彩・キャンバス
19	高田力蔵	スペイン階段(ローマ)		1972年	油彩・キャンバス
20	作者不詳	美人立姿		江戸時代末期	紙本着色
21	渡辺了之	扁鵲画像		江戸時代前期	紙本墨画淡彩
22	榊原文翠	鷹野之図		明治時代初期	絹本着色
23	坂巻(月岡)耕漁	能面			絹本着色
24	野口小蘋	山水図		明治時代	絹本着色
25	長野草風	葭に鶴鴿		大正-昭和時代	絹本着色
26	中村貞以	螢			絹本着色
27	本荘 赳	淡雪		1968年	油彩・キャンバス
28	本荘 赳	砂丘晩秋		1969年	油彩・キャンバス
29	永尾嘉多留	玄界灘		1929年	油彩・板
I 小田原・箱根湯本ほか					
30	藤井白映	松田山		1966-67年頃	紙本着色
31	横田七郎	どんど焼きの朝		1988年	木版・紙
32	横田七郎	トルコの風呂屋		1978年	木版・紙
33	横田七郎	鳥の軀(むくろ)(静物のうち)(後)		1929年	彫刻・木
34	横田七郎	こち(後)		不詳	彫刻・木
35	今村紫紅	熱国の巻(小下絵)(前)		1913年頃	紙本着色
36	安田靉彦	阿呼詠詩		1939年	絹本着色

No.	作家名	作品名	*は寄託作品 **は個人蔵作品	制作	材質・技法
37	今村紫紅	入る日・出る月（下絵）		1917年	紙本着色
38	平賀敬	クリシー病院の見舞客		1975年	油彩・キャンバス
39	二見利節	ナナカマド		1970年	油彩・キャンバス
40	二見利節	三人の女		1939年	油彩・キャンバス
41	二見利節	集い		1940年	油彩・キャンバス
42	近藤弘明	寂詔苑		1982年	紙本着色
43	近藤弘明	寂照夜		1992年	紙本着色
44	近藤弘明	幻光－御感の藤－		1987年	紙本着色
45	井上三綱	泰山石刻		1971年頃	岩絵具、コラージュ・紙
46	井上三綱	乳牛三頭		1951年	墨、弁柄、胡粉・キャンバス
47	井上三綱	水辺の馬		1951年	墨、弁柄、胡粉・キャンバス

II 平塚

48	今村信夫	遊び場		1966年	油彩・キャンバス
49	工藤甲人	愉しき仲間（一）		1951年	顔彩・紙
50	工藤甲人	愉しき仲間（二）		1951年	顔彩・紙
51	鳥海青児	ピカドール		1958年	油彩・キャンバス
52	鳥海青児	根来瓶子と果物		1971年	油彩・キャンバス
53	鳥海青児	メキシコの西瓜（メキシコ風の西瓜）		1961年	油彩・キャンバス
54	鳥海青児	伊賀瓶子とメロン		1957年	油彩・合板
55	真垣武勝	尾瀬		1963年	油彩・キャンバス
56	真垣武勝	白樺湖と蓼科 ー朝ー		1954年	油彩・キャンバス
57	平野杏子	蘇生する善知識*		1978年	油彩・キャンバス
58	古川恂	三美神		1968年	油彩・キャンバス
59	宮下貞一郎	辰砂角壺		不詳	工芸
60	辻協	壺一会		1965-70年	工芸

III 茅ヶ崎

61	鈴木至夫	冬の日本海		1985年	顔彩・紙
62	鈴木至夫	春		1955年	顔彩・紙
63	鈴木至夫	雪原		1983年	顔彩・紙
64	木下公男	エレファントの村		1979年	油彩・キャンバス
65	萬鐵五郎	ねて居る人		1923年頃	木版・紙
66	萬鐵五郎	雲と裸婦		1922年頃	油彩・キャンバス
67	萬鐵五郎	羅布かづく人		1924年	木版・紙
68	森田勝	柿		1942年	油彩・キャンバス
69	森田勝	矢車艸		1928年	油彩・キャンバス
70	菅野陽	かへの横ばい		1951年頃	油彩・キャンバス
71	鶴田猛	機関車		1972年	油彩・キャンバス
72	三橋兄弟治	セゴビアの古寺と民家		1968年	水彩・紙
73	小山敬三	晩秋飛瀑		1977年	油彩・キャンバス
74	養田つや子	極楽華		1971年頃	油彩・キャンバス
75	青山義雄	バラアーチ		1990年	油彩・キャンバス

■院展彫刻の一潮流 -近代と伝統のはざままで-

No.	作家名	作品名 <small>*は寄託作品 **は個人蔵作品</small>	制作	材質・技法
1	平 櫛 田 中	灰袋子 (かいたいし)	1950年	木
2	宮 本 理三郎	平櫛先生像**	不詳	木
3	橋 本 平 八	蝦蟇仙人 (がませんにん)**	昭和初期頃	木
4	宮 本 理三郎	桐葉**	1969年頃	木
5	宮 本 理三郎	蓮根**	1969年頃	木
6	宮 本 理三郎	ざくろ**	不詳	木
7	宮 本 理三郎	子雀**	不詳	木
8	宮 本 理三郎	かわせみ**	不詳	木
9	宮 本 理三郎	鶴の雛**	1954年	木
10	宮 本 理三郎	しゃものひな**	1934年	木
11	横 田 七 郎	めざし	1928年	木
12	横 田 七 郎	静物 (骸 豆 干物 干物)	1929年	木
13	横 田 七 郎	野うさぎ	不詳	木
14	横 田 七 郎	筍	不詳	木
15	横 田 七 郎	栗 (2点)	不詳	木
16	横 田 七 郎	たこ	不詳	木
17	横 田 七 郎	こち	不詳	木
18	横 田 七 郎	うちわえび	不詳	木
19	横 田 七 郎	魚	不詳	木
20	横 田 七 郎	とびうお	不詳	木
21	横 田 七 郎	鳩	不詳	木
22	横 田 七 郎	魚 (金文)	1967～77年	木
23	横 田 七 郎	貝 (金文)	1967～77年	木
24	武 井 直 也	女の首**	1925年頃	ブロンズ
25	保 田 龍 門	裸婦立像	1924年頃	ブロンズ
26	保 田 龍 門	母子像	1928年	ブロンズ
27	保 田 龍 門	臥女	1925年	ブロンズ
28	保 田 龍 門	裸女立像	1939年	ブロンズ
29	保 田 龍 門	坐せる女	1939年	ブロンズ
30	保 田 龍 門	裸婦座像	1945～55年	ブロンズ
31	保 田 龍 門	半裸座像	1945～55年	ブロンズ
32	保 田 龍 門	裸婦仰臥	1945～55年	ブロンズ
33	保 田 龍 門	うづくまる女	1947年	ブロンズ
34	土 方 久 功	マスク**	1924年	ブロンズ

教育普及

美術館では、来館者が美術に親しむプログラムを様々な方法で実施している。展示以外のもので、来館者に教育的配慮のあるプログラムをここにまとめた。

教育普及は参加者の個人の体験を軸にして、体験型、参加型で美術や美術館について学ぶところに特徴がある。したがって、深く美術や美術館と接点をもつ来館者や愛好者層の育成、あるいは美術館活動を理解し支える層を育成している。

I 講座・レクチャー

① 友の会レクチャー

企画展のページを参照。

② 企画展にともなう講演会

企画展のページを参照。

③ ギャラリー・ツアー（企画展・常設展の担当学芸員による展覧会解説やレクチャー）

企画展のページを参照。

④ ギャラリー・トーク（企画展・常設展の担当学芸員による作品解説やレクチャー）

企画展のページを参照。

II ワークショップ

① 定例ワークショップ

9種類10回のワークショップを当館で育成したボランティアスタッフによりおこなった。対象は小学生から一般まで。185名の参加者があった。

6月1日（日） 空間をデザインするー風景や物語の三次元ワールドへ（リーダー：二見葉子さん）

参加者9名

7月27日（日） 子どものワークショップ 茶の湯を楽しむ（リーダー：高橋静枝さん）

参加者20名

8月9日（土）10日（日） 藍の色 生葉とすくものブルー（リーダー：山岸八千代さん）

参加者28名

9月20日（土） わたしのカラダを立体コピー（リーダー：伊藤順子さん勝俣ひろみさん広川未央さん）

参加者6名

10月18日（土）25日（土） 絵+文字の木版画（リーダー：鳥脇信雄さん）

参加者4名

11月15日（土） 色をつくろう！色で遊ぼう！（リーダー：安田亜希子さん）

参加者18名

12月13日（土） 透かし葉に金箔装飾のクリスマスカード（リーダー：鳥脇信雄さん）

参加者30名

12月14日（日） 追加ワークショップ透かし葉に金箔装飾のクリスマスカード（リーダー：鳥脇信雄さん）

参加者25名

1月17日（土）18日（日） 日本の色ー紅花の桃色を探求するー（リーダー：山岸八千代さん）

参加者27名

3月20日（土）21日（日）28日（日） 茶会・新スタイルー表現としての喫茶（リーダー：高橋静枝さん）

参加者18名

② 教育目的の依頼によるワークショップ

その他教育目的の依頼によるワークショップを開催。

- ・ 聖ステパノ学園中学校1年生から3年生までの授業
「色をつくろう！色で遊ぼう！」（10月31日） 15名参加
「わたしのカラダを立体コピー」（11月5日） 15名参加
「紅花の染色」（11月7日） 15名参加
- ・ 入間市博物館の教育普及活動
「わたしのカラダを立体コピー」（11月16日） 15名参加

Ⅲ ワークショップクラブ

参加者の学ぶ意欲や関心をふまえ、学びながら館活動へ貢献し、館活動をサポートする市民の育成をおこなう長期的な教育プログラム。

① 「湘南美術散歩」

平塚を含む湘南地方に在住、または縁のある美術家、作品について学びつつ、所蔵作家や作品および、近隣の美術館が所蔵する作品についても学び、鑑賞し、湘南の美術作家と作品についての地図やまとめの冊子を製作するプログラム。年間を通じて月1回程度開催および、館外の美術館・美術散歩を開催。全11回、館外散歩2回、のべ205名の参加があった。

担当 端山聡子

② ひとワークショップクラブ（定例あるいは依頼によるワークショップ）

これまでのワークショップ、養護学校や海外からの視察へのワークショップの成果をふまえて、一般向けワークショップの実施ボランティア・スタッフとして活動を行うプログラム。ワークショップ開催日の10ヶ月前よりミーティングをおこない、準備が開始される。

空間をデザインするー風景や物語の三次元ワールドへ、子どものワークショップ 茶の湯を楽しむ、藍の色 生葉とすくものブルー、わたしのカラダを立体コピー、絵+文字の木版画、色をつくろう！色で遊ぼう！、透かし葉に金箔装飾のクリスマスカード、日本の色ー紅花の桃色を探求するー、茶会・新スタイルー表現としての喫茶などのプログラムについて準備、研修、勉強会を行い指導者およびサポートスタッフを育成した。年間を通じて月2回程度の勉強会および準備をおこなった。のべ450名程度の参加があった。

担当 端山聡子

③ ものワークショップクラブ（資料整理）

〈もの〉ワークショップクラブとは、〈もの〉＝平塚市美術館の作品および資料類の整理に関わることで資料の保存、資料について、レジストレーションについて学び、実際に資料を公開するための準備作業、資料利用のためのプロセスを体験している。今年度は、「原精一の素描と画室」展（～2003年3月30日展示室I）の撤収を4月の第1週におこなった。未整理資料の整理を引き続きおこない、2004年3月末に『原精一寄贈資料整理報告書2003』報告書（410頁CD-ROM付）を発行し、全データをWeb上で公開した（<http://museum.isogaya.co.jp/hiratsuka/>）。年間を通じて月に6回～10回程度開催し、のべ500名程度の参加があった。

担当 端山聡子

IV 博物館実習

各大学より若干名、美術を専攻する博物館実習生を6月～3月に14名、12大学から実習生を受け入れた。

守川 亜希	多摩美術大学	絵画学科	造形学科	4年
田平 翔子	横浜美術短期大学	造形美術科	デザイングラフィックデザインコース	2年
松岡 有紀	清泉女子大学	文学部	文化史学科	4年
照井 可哉	武蔵野美術大学	造形学部	油絵学科	4年
穴甘 真奈	昭和音楽大学	音楽部	器楽学科	4年
松永真理子	聖心女子大学	外国語外国文学科	英語英文学	4年
簗島ちひろ	東京家政大学	家政学部	日本・東洋美術史研究室	4年
木村 祥子	明治学院大学	文学部	芸術学科	4年
高瀬 真紀	東海大学	工学部	建築学科	4年
小宮 令子	和光大学	人文学部	西洋美術専攻	4年
杉山 優子	武蔵野美術大学	造形学部	油絵学科	4年
掛川 智子	女子美術大学	芸術学部	芸術学科	3年
市川 恵子	多摩美術大学	絵画学科	日本画専攻	4年
平田 由布	多摩美術大学	絵画学科	油画専攻	4年

V 講座・研修会の開催

教育目的の依頼により講座・研修会などを開催した。

① 平塚ステーションビル ラスカ新職員研修

開催日 4月4日
場 所 平塚市美術館
担 当 尾崎真人

② 美術教諭の10年目研修

開催日 8月12日
場 所 平塚市美術館
担 当 端山聡子

神奈川県立総合教育センターの依頼により美術教諭3名を受け入れた。

③ 博物館技術コース専門研修（8ヶ国9名）

開催日 9月17日
場 所 平塚市美術館
担 当 端山聡子

日本国際協力センターの依頼により平塚市美術館の教育普及について講義、3種類のワークショップを実施。

④ 博物館技術コース専門研修

開催日 11月19～29日

場 所 平塚市美術館

担 当 端山聡子

JICA日本国際協力センターの依頼により、Ms. Salasini Charity Namukoko Mwape（全国博物館委員会ルサカ国立博物館教育担当官）を11月19～22日、ガテマラのMr. Maza Ponce Jose Mario Ottoniel（カルロス・メリダ国立近代美術館館長）を11月19日～29日の日程で受け入れた。研修期間中に一般向けのワークショップ「ザンビアの生活文化を体験－ダンスと歌そして人々の笑顔について－」（11月22日）、「芸術によって伝達されるガテマラの文化+ガテマラ料理」（11月27日）を実施した。

共催事業・館外活動

1. 美術館共催事業

I. 「第26回平塚市展」

主 催	平塚市展委員会
協 力	平塚市教育委員会、平塚書道協会、湘南工芸家協会、平塚美術家協会、平塚写真連盟
会 期	6月15日－6月29日
会 場	アートギャラリー、展示室I
応募作品数	498点、入選作品数428点、入賞作品67点
観 覧 数	5,516人

II. コンサート

① 「第8回美術館で聴く七夕コンサート 音楽と朗読の夕べ」

第一部 太宰 治「カチカチ山」/山田耕筰「弦楽四重奏曲」 第二部 宮澤賢治「銀河鉄道の夜」

日 時 7月6日 18:30-20:30

朗 読 田中美里、高嶋政伸、榑原利彦、神戸 浩、丹阿弥谷津子

舞台美術 坂田甚内

演 奏 松田真樹(ピアノ)、木野雅之(ヴァイオリン)、佐份利恭子(ヴァイオリン)、
須田祥子(ヴィオラ)、三宅 進(チェロ)

参加者数 282名

主 催 平塚ステーションビル ラスカ、平塚市美術館

後 援 平塚市、(財)平塚市文化財団、平塚商工会議所、JR平塚駅

*当コンサートの入場料は、すべて「平塚市文化振興基金」に寄付されました。

2. 館所蔵作品の広報活動

I. 所蔵作品解説

① 「湘南の美術・光」『広報ひらつか』

岸田 劉生	「Aの肖像」	森田 英之	第740号	2003年4月1日
椿 貞雄	「婦人像(糟谷夫人)」	森田 英之	第742号	2003年5月1日
常盤 大空	「カラフラン」	尾崎 真人	第744号	2003年6月1日
鳥海 青児	「顔をかくす」	尾崎 真人	第746号	2003年7月1日
保田 春彦	「人体」	尾崎 真人	第748号	2003年8月1日
原 精一	「林芙美子像」	端山 聡子	第750号	2003年9月1日
原 精一	「しずよのデスマスク(仮題)」	端山 聡子	第752号	2003年10月1日
松本 節	「由比ヶ浜」	郡司亜也子	第754号	2003年11月1日
森川 鎧	「大根」	郡司亜也子	第756号	2003年12月1日
芝山 吉邦	「汐の詩」	勝山 滋	第758号	2004年1月1日
岡本 秋暉	「金鶏鳥図」(企画展紹介)	郡司亜也子	第760号	2004年2月1日
歌川 国貞	「澤村田之助 尾上松助」	勝山 滋	第762号	2004年3月1日

② 「湘南ゆかりの作家」 神奈川新聞

山下大五郎	「平塚風景」	森田 英之	No. 68	2003年4月17日
原 精一	「たまごのある静物」	森田 英之	No. 69	2003年4月24日
二見 利節	「人生の羅漢」	森田 英之	No. 71	2003年5月15日
松本 節	「由比ヶ浜」	郡司亜也子	No. 75	2003年6月12日
工藤 甲人	「蝶の階段」	森田 英之	No. 76	2003年6月19日
国領 経郎	「海景」	勝山 滋	No. 81	2003年7月24日
近藤 弘明	「幻光－御感の藤」	尾崎 真人	No. 87	2003年9月11日
大島 哲以	「鳥儒激戦」	尾崎 真人	No. 90	2003年10月2日

③ その他

「絵を見る」『ラスカ・タイムズ』（平塚ステーションビル名店会発行）

真垣 武勝	「エーゲ海・ミコノス島」	福田 徳樹	「絵を見る33」	2003年4月号
黒田 清輝	「由比ヶ浜」	福田 徳樹	「絵を見る34」	2003年6月号
横田 七郎	「魚」	福田 徳樹	「絵を見る35」	2003年10月号
山本 丘人	「春近し」	福田 徳樹	「絵を見る36」	2004年1月号

「美の倉」『青淵』（渋沢青淵記念財団竜門社発行）

「赤蛙－宮本理三郎」	勝山 滋	第651号	2003年6月1日
「益井三重子「俑」」	勝山 滋	第657号	2003年12月1日

3. 研究活動

I. 講演・講座等

〔講座・講義〕

端山 聡子 「ワイエス・フォーラムワークショップ」(丸沼芸術の森 2003年4月20日)

端山 聡子 「平塚市美術館の教育普及活動について」
(ボランティア研修会 大分市美術館 2003年7月17日)

端山 聡子 「美術館の教育普及活動」(博物館学 武蔵野美術大学 2003年10月23日)

端山 聡子 「美術館の教育普及活動」(博物館学 東海大学 2004年2月18日)

端山 聡子 「教育普及再考－美術館のミッションと利用者をつなぐために」
(2003年12月18日 国立西洋美術館)

〔研修会〕

端山 聡子 「第19回学芸員研修会 教育普及再考－美術館のミッションと利用者をつなぐために」の
検討・実施メンバー (2003年12月17～18日、2004年2月4日～6日 国立西洋美術館)

〔口頭発表〕

郡司亜也子 「岡本秋暉の画業と画風展開－干支印作品群を中心に」
(美術史学会第56回全国大会、関西学院大学、2003年5月)

II. 著書・論文・作品解説等

〔論文〕

郡司亜也子 「岡本秋暉の画業と作品に関する基礎的研究－干支印作品群を中心に－」
(『鹿島美術研究』、年報第20号別冊、2003年11月)

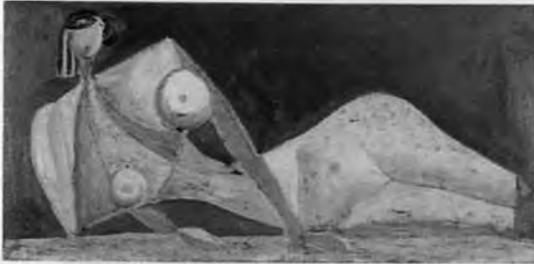
保存・修復

保存・修復作品

No.	作者名	作品名	技法・材質	寸法 (cm)
-----	-----	-----	-------	---------

絵画 (修復)

1	井上 三綱	横たわる女	油彩・キャンバス	36.4×75.5
2	井上 三綱	馬習作	油彩・キャンバス	42.2×58.8



横たわる女



馬習作

彫刻・立体 (保存・メンテナンス)

1	保田 春彦	赤錆の幕舎	COR-TEN鋼	257.0×296.0×209.0
2	佐藤 忠良	緑	ブロンズ	190.0×80.0×70.0
3	舟越 保武	海の顕彰碑 渚	ブロンズ	194.0×60.0×50.0
4	柳原 義達	座る女	ブロンズ	71.0×100.0×45.0
5	淀井 敏夫	海	ブロンズ	340.0×230.0×90.0
6	ホセ・デ・リヴェラ	コンストラクション#115	ステンレススチール	612.0×853.0×912.0

収蔵庫虫害調査（虫害モニタリング）

実施期間：平成16年2月13日（金）～2月20日（金） 収蔵庫Ⅰ・Ⅱ、特別収蔵庫

結果報告：目視調査とトラップ（採取器）による調査をあわせて行った。収蔵庫Ⅰにゴキブリ用粘着トラップ8個、ジンサンシバンムシ用フェロモントラップ8個、タバコシバンムシ用トラップ8個、計24個を床に設置、収蔵庫Ⅱおよび特別収蔵庫にはゴキブリ用、ジンサンシバンムシ用、タバコシバンムシ用を各1個ずつ設置した。目視調査を行った1週間後の2月20日に回収した。

収蔵庫Ⅰに保管されていた絵画裏面と画架にクロゴキブリの卵鞘が各1個ずつ付着しているのが見つかった。またR37ラックからナガカメムシ類の成虫死骸1個が採取された。クロゴキブリの卵鞘はいずれもかなり古く死滅しており、収蔵庫に搬入される前に産卵付着されていたものと考えられる。ナガカメムシ類も搬入された美術品等に死骸として付着して持ち込まれたか、たまたま外部から侵入したもので、いずれも収蔵庫内で生息しているとは考えられない。収蔵庫Ⅱ、特別収蔵庫では、目視調査、トラップによる調査でも昆虫は捕獲されなかった。なお、いずれの収蔵庫においてもカビによる被害は認められなかった。以上の結果、当館の収蔵庫Ⅰ・Ⅱ・特別収蔵庫では現在のところ、虫害やその被害は発生していないと考えられる。

展示室Ⅰ・Ⅱにおける床面集塵物の調査

虫害モニタリングの一環として、平成15年6月1日（日）に展示室Ⅰと展示室Ⅱの床面から捕集した塵埃中に害虫または虫害に関連するものが含まれているかどうか調査した。

結果報告：各室ごとに電気掃除機を用いて採取した。採取された塵埃量は少なく、いずれも1g以下であった。繊維類、いわゆる綿ぼこり類が最も多かった。次いで、植物片、毛髪、土砂などが含まれ、昆虫ではクモの死骸の一部、ゲンバムシ科の昆虫の翅1枚、アミメアリの死骸の一部などが認められた。調査の結果、展示室Ⅰ・Ⅱでとくに注目すべき昆虫が侵入していたり、虫害が発生しているとは考えられない。

収蔵・貸与

収蔵作品

平成15年度に収蔵された作品は、購入1点、寄贈17点、寄託4点の計22点。
作品分類別内訳は下表の通り。

所蔵の経緯	登 録 部 門							
	日本画	洋画・素描	版 画	彫刻・立体	工 芸	書	写 真	計
購 入	0	1	0	0	0	0	0	1
寄 贈	12	2	2	1	0	0	0	17
移 管 替	0	0	0	0	0	0	0	0
寄 託	0	2	1	1	0	0	0	4
計	12	5	3	2	0	0	0	22

	作家名	作品名	制作年	作品寸法(mm)	材質技法	寄贈者
1	鹿子木 孟 郎	藤沢風景	1905年	335×555	水彩・紙	山本隆志氏
2	黒 田 清 輝	赤星弥之助像	1909年	865×683	油彩・キャンバス	購入
3	河 野 通 勢	窓外風景(小金井の裏木戸)	1930年頃	270×350	油彩・厚紙	河野恒人氏
4	小 島 弘	ポーズ	1957年	1570×530×530	ブロンズ	小島 弘氏
5	藤 井 白 映	松田山	1950年代	1530×1530	紙本着色	関山満夫氏
6	水 谷 愛 子	サーリとコブ牛	1978年頃	2120×1670	麻紙着色	山中雪人氏
7	水 谷 愛 子	仲よし	1998年	1700×2150	麻紙着色	山中雪人氏
8	水 谷 愛 子	ふね	1967年	1620×2100	麻紙着色	山中雪人氏
9	山 下 大五郎	祭の森	1969年	1690×840(6面)	紙本着色	内田英雄氏
10	山 中 雪 人	樹下	1960年代	1610×1290	麻紙着色	山中雪人氏
11	山 中 雪 人	女	1974年	1020×1020	麻紙着色	山中雪人氏
12	山 中 雪 人	釈迦	1970年	800×900	麻紙着色	山中雪人氏
13	山 中 雪 人	洗礼	1996年	1620×2600	紙本墨画金泥	山中雪人氏
14	山 中 雪 人	磔刑	1998年	1620×2600	紙本墨画金泥	山中雪人氏
15	横 田 七 郎	トルコの風呂屋	1978年	720×900	木版・紙	横田八郎氏
16	横 田 七 郎	どんど焼きの朝	1988年	910×460	木版・紙	横田八郎氏
17	横 田 七 郎	めざし	1928年	長さ60	木	横田八郎氏
18	横 田 七 郎	干物	1929年	長さ150	木	横田八郎氏
19	横 田 七 郎	カタクチイワシ	1929年	長さ80	木	横田八郎氏
20	横 田 七 郎	豆	1929年	長さ70	木	横田八郎氏
21	横 田 七 郎	骸	1929年	長さ230	木	横田八郎氏
22	横 田 七 郎	とびうお	不詳	長さ200	木	横田八郎氏
23	横 田 七 郎	魚	不詳	長さ370	木	横田八郎氏
24	横 田 七 郎	こち	不詳	長さ260	木	横田八郎氏
25	横 田 七 郎	野うさぎ	不詳	高さ250	木	横田八郎氏

	作家名	作品名	制作年	作品寸法(mm)	材質技法	寄贈者
26	横田七郎	筍	不詳	長さ305	木	横田八郎氏
27	横田七郎	栗	1933年頃	高さ65	木	横田八郎氏
28	横田七郎	栗	1933年頃	高さ70	木	横田八郎氏
29	横田七郎	貝(金文)	1967-77年頃	高さ310	木	横田八郎氏
30	横田七郎	うちわえび	不詳	高さ90	木	横田八郎氏
31	横田七郎	たこ	不詳	高さ70	木	横田八郎氏
32	横田七郎	鳩	不詳	高さ190	木	横田八郎氏
33	横田七郎	魚(金文)	1967-77年頃	高さ210	木	横田八郎氏
34	清水多嘉示	裸婦	1997年	485×330	リトグラフ	寄託
35	清水多嘉示	S嬢	1964年	高さ370	ブロンズ	寄託
36	平野杏子	善財南に行く	1974年	1940×1303	油彩・キャンバス	寄託
37	平野杏子	蘇生する善知識	1978年	2270×1810	油彩・キャンバス	寄託

新収蔵作品



1 鹿子木孟郎「藤沢風景」



2 黒田清輝「赤星弥之助像」



3 河野通勢
「窓外風景 (小金井の裏木戸)」



4 小島弘「ポーズ」



7 水谷愛子「仲よし」



8 水谷愛子「ふね」



13 山中雪人「洗礼」



14 山中雪人「磔刑」



9 山下大五郎「祭の森」(6面)



17 横田七郎「めざし」



18 横田七郎「干物」



19 横田七郎「かきかわし」



20 横田七郎「豆」



21 横田七郎「鮫」



22 横田七郎「とびうお」



23 横田七郎「魚」



24 横田七郎「こち」



25 横田七郎「野うさぎ」



26 横田七郎「筍」



27 横田七郎「栗」



29 横田七郎「貝 (金文)」



30 横田七郎「うちわえび」



31 横田七郎「たこ」



32 横田七郎「鳩」



33 横田七郎「魚 (金文)」

貸与作品

本年度は他美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対し、展覧会の内容、意義、作品の状態、常設展示の計画などを考慮し、下記の作品を貸し出した。

貸出件数	貸出点数	内 訳						
		日本画	洋画・素描	版 画	彫刻・立体	工 芸	書	写 真
12	28	6	21	0	1	0	0	0

展覧会名	貸出先（会場）	展覧会期間	作品名
春陽会－草創の画家たち	萬鐵五郎記念美術館 小杉放庵記念日光美術館	4月12日－5月11日 5月17日－6月15日	木村莊八<ギターを弾く男(鳥海青児)> 椿貞雄<朝子像> 椿貞雄<菊子座像> 椿貞雄<鵠沼風景> 萬鐵五郎<宙腰の人>
平櫛田中の全貌	井原市立田中美術館	4月15日－6月15日	平櫛田中<灰袋子>
田澤茂の絵画世界	茅ヶ崎市美術館	4月26日－6月11日	田澤茂<民話 紋> 田澤茂<太陽の街>
みんなでいこう美術館	福井市美術館	5月31日－6月29日	黒田清輝<波打ち際の岩> 岸田劉生<F氏像> 鳥海青児<ピカドール> 鳥海青児<フラメンコ>
近代洋画の創造	松坂屋美術館	7月12日－7月29日	鳥海青児<川沿いの家>
アートでZOO	秋田県立近代美術館	7月12日－9月14日	工藤甲人<愉しき仲間(一)>
動物、アートとなる	群馬県立館林美術館	7月19日－9月7日	鳥海青児<サーカスの馬>
旅と画家－近代日本画家のみたもの	群馬県立近代美術館	9月27日－11月3日	今村紫紅<熱国之巻(小下絵)> 今村紫紅<入る日・出る月(小下絵)>
内なる美を求めて 劉生と京都	京都市美術館	10月25日－11月30日	岸田劉生<金子保> 岸田劉生<自画像> 岸田劉生<石垣ある道(鵠沼風景)> 岸田劉生<Aの肖像> 岸田劉生<F氏像> 岸田劉生<永日小品>
院展作家の一系譜	三溪園保勝会	11月1日－11月30日 11月1日－11月30日 11月1日－11月30日	今村紫紅<入る日・出る月(小下絵)> (後期のみ) 安田靉彦<赤星母堂像> 安田靉彦<日食>
描かれた音楽－西洋楽器と出会った日本絵画	神戸市立博物館	11月1日－12月25日	木村莊八<ギターを弾く男(鳥海青児)>
両洋の眼	松坂屋美術館	2月11日－2月23日	平賀敬<魚眠館異聞あぶく>

統 計

平成15年度 観覧者数

月	企 画 展	常 設 展	観 覧 者 数 計
4	287	532	819
5	2,904	1,928	4,832
6	310	1,087	1,397
7	1,053	1,378	2,431
8	3,286	2,579	5,865
9	2,176	1,503	3,679
10	1,141	1,373	2,514
11	1,933	1,819	3,752
12	0	571	571
1	0	881	881
2	2,206	1,921	4,127
3	2,515	2,386	4,901
合 計	17,811	17,958	35,769
前年度末	585,148	505,210	1,034,329
開館以来	602,959	523,168	1,070,098

平成15年度 施設利用状況（展覧会・会議室・ホール）

月	展覧会開催日数	会 議 等	ミュージアムホール
		件 数	貸出日数
4	26	6	6
5	27	11	0
6	24	3	3
7	27	12	5
8	27	9	0
9	25	5	2
10	27	10	1
11	27	8	5
12	24	7	11
1	24	5	4
2	25	5	1
3	22	11	3
合 計	305	92	41

平成15年度 学校団体観覧利用状況

		常 設 展			企 画 展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小 学 校	市 内	17	998	50	9	443	23
	市 外	4	384	17	2	253	10
中 学 校	市 内	11	125	15	9	74	18
	市 外	5	62	20	4	48	18
高 等 学 校		2	24	6	1	13	13
合 計		39	1,593	108	25	831	82

平成15年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展覧会 開催日数	利用 団体数	入場者数 (人)	展覧会名
4	26	9	5,007	樟の会作品展、紙に描く展、芳乃和陶芸教室作品展、創作和紙人形華の会、平塚・出会いのときー港・河口・海岸、第18回湘南市民美術展、湘美会、足柄刺繍・繡の会20周年記念展
5	27	7	6,312	岩瀬玉泉水墨画個展、柳彩会、2003第19回湘南写真家協会展、寂静会 想展、feel.chapter2～featureingコーキー展、楽窯会作品展
6	19	3	4,254	画材&ギャラリーOCTオクトアトリエ展、木作品展覧会、第26回平塚市展
7	25	6	4,306	2003 心派日本画大展、2003 平塚写真連盟 写真展、公募、抽展、神奈川県筆友書道連盟公募展、2003年水美日彩会展、杉崎力個展
8	26	6	4,447	すさ美会展、パレットの会 絵画展、平塚書道協会展、河内素子個展、湘南工房陶芸教室作品展、連展
9	24	6	4,965	集団個展、県民書連役員選抜展、第39回JRP湘南支部 写真展、画材&ギャラリーOCTオクトアトリエ展、第59回平塚美術家協会展、湘南窯友の会作陶展
10	27	5	3,914	あとろえはなひで 花展、親と子による写生会展展示会、彩和・彩湘会合同展示会、此君会水墨画展、第51回平塚市文化祭
11	27	6	11,201	幼少図工作品展、中学校美術展、オリンパスカメラクラブ湘南支部第6回作品展、杉山明和個展ーコラージュの試み、公募、第1回湘南市民秋の小品展、第5回透彩会展
12	22	5	3,601	フォト四季写真展、旭彩会水彩画展、日本画なでしこ会展、波の子造形教室作品展、命をみつめるアート展
1	21	5	4,862	アトリエ・バンピF作品発表会、平塚市保育園児童絵画展、陶芸クラブ有雅陶、平塚市・東海大学交流事業 東海大学教養学部芸術学科 造形作品の展示とコンサート、若林薫作品展
2	20	5	3,367	心創展、アート21第五回油彩画展、平塚市教員美術展
3	21	8	6,496	ひまわりの会展、銀杏カルチャー教室発表展、公募、第2回動く彫刻、動くMONO展、樟の会作品展、第5回陶悠会作品展、楽彫会合同木彫展、フラワートールペイント、湘南芸術家協会展
計	285	71	62,732	

平成15年度 ミュージアムホール利用状況

月	利用 日数	利用曜日		利 用 団体数	入場者数 (人)	利 用 目 的
		土・日	その他			
4	6	5	1	6	510	音楽会4件、講演会2件
5	0	0	0	0	0	横田七郎展で使用
6	3	1	2	3	225	音楽会1件、市事業2件
7	5	2	3	5	440	音楽会2件、市事業3件
8	0	0	0	0	0	野町和嘉写真展で使用
9	2	1	1	2	170	音楽会で使用
10	1	1	0	1	60	講演会で使用
11	5	3	2	4	460	音楽会2件、市事業2件
12	11	6	5	11	700	音楽会9件、市事業2件
1	4	3	1	4	160	音楽会2件、市事業2件
2	1	1	0	1	90	音楽会で使用
3	3	2	1	3	230	音楽会2件、市事業1件
計	41	25	16	40	3,045	

平成15年度 市民アートギャラリー入場者の推移

平成 2 年度	1件	3,265人
平成 3 年度	41件	61,152人
平成 4 年度	50件	71,107人
平成 5 年度	52件	60,426人
平成 6 年度	56件	61,948人
平成 7 年度	61件	62,632人
平成 8 年度	62件	61,412人
平成 9 年度	58件	61,301人
平成 10 年度	59件	57,369人
平成 11 年度	63件	57,487人
平成 12 年度	62件	58,643人
平成 13 年度	63件	53,859人
平成 14 年度	62件	54,473人
平成 15 年度	71件	62,732人

総 計	761件	787,806人
-----	------	----------



平塚・出会いのとき-港・河口・海岸



第18回 湘南市民美術展



第26回 平塚市展



神奈川県筆友書道連盟公募展



あとリエはなひで 花展



湘南窯友の会作陶展



平塚市立 幼小園作品展



平塚 大磯 二宮 地区 中学校美術展

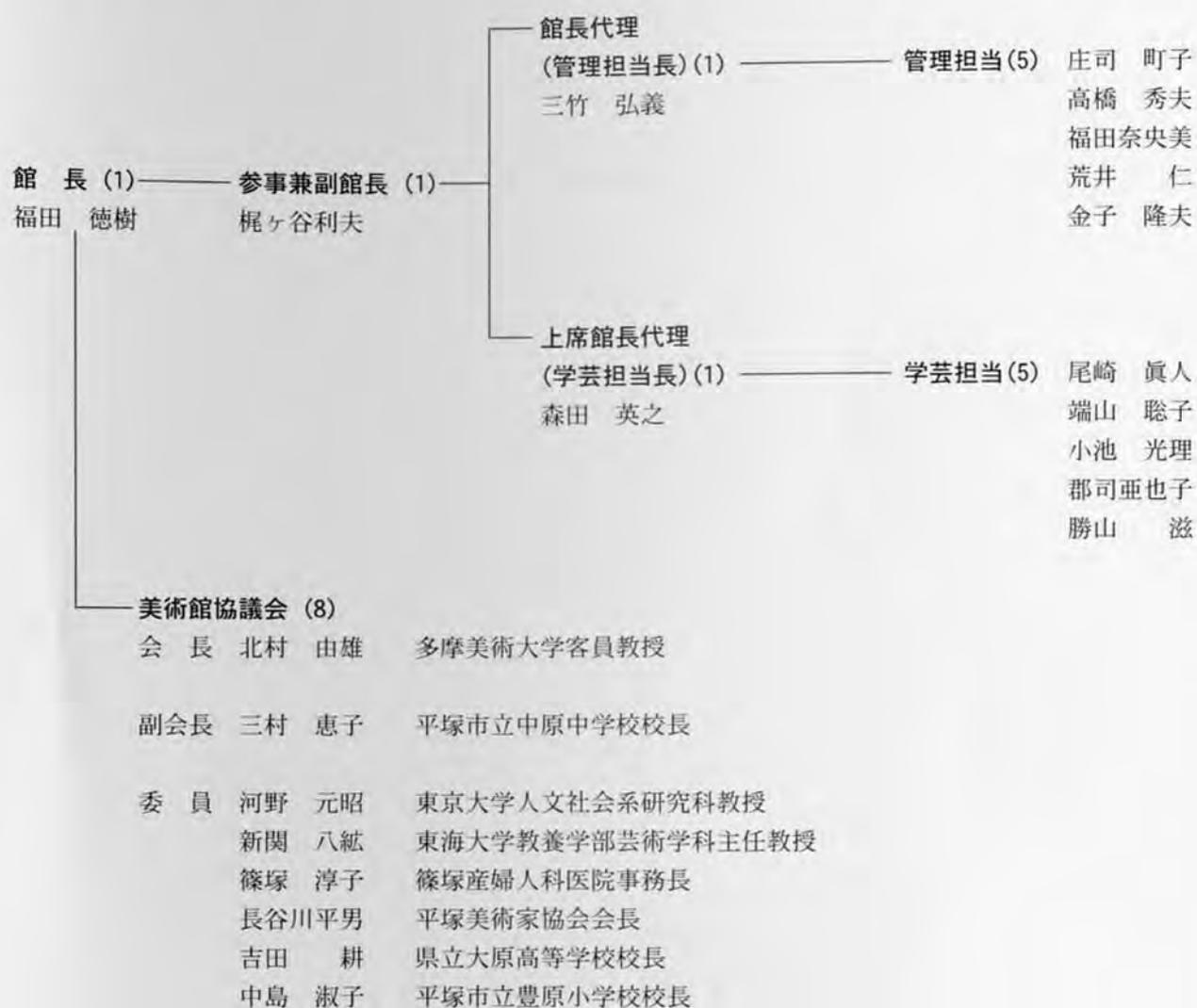


花のツールペイントと水彩展
～from イングリッシュガーデン

沿革

1984年	5月	美術館建設研究委員会（庁内）
1985年	7月	平塚市美術館基本構想策定委員会設置（1986年まで8回開催）
1986年	3月	「平塚市美術館基本構想策定」答申
1986年	4月	美術館建設基本計画策定連絡協議会設置（庁内）
1986年	9月	「平塚市美術館建設基本計画」策定
1988年	4月	美術館建設準備室設置
1989年	6月	美術館建設起工
1990年	10月	美術館本体工事竣工
1990年	12月	平塚市美術館条例公布
1991年	3月	平塚市美術館開館
1996年	10月	平塚市美術館開館5周年記念展 「ミレーとバルビゾン派の画家たち」
2000年	7月	第50回湘南平塚七夕まつり歴史回顧展
2000年	10月	平塚市神奈川大学交流提携10周年記念 「開港期の神奈川・世界が見た日本」展
2001年	7月	平塚市美術館 開館10周年記念 「湘南の美術・光－美術館建設運動から開館10周年まで－」展
2002年	2月	開館10周年記念 「日本画の巨匠 安田靉彦－歴史画の魅力」展
2002年	4月	「平塚市美術館友の会」発足
2002年	11月	市制70周年記念 －人間表現の魅力－「原精一」展
2003年	2月	地域コレクション展Ⅲ 平塚市・神奈川大学交流事業 神奈川大学図書館所蔵 パリ・コミュニケーションの諷刺画 「－1871年ペンと大砲の市民革命－」展

組織・運営



協議会の開催

第1回 2003年10月30日 (木) (美術館研修室)

1. 平成15年度の事業経過及び後半の事業概要について
2. 平成14年度寄贈・寄託作品について
3. その他

第2回 2004年3月17日 (水) (美術館研修室)

1. 平成15年度の事業について
2. 平成16年度の事業計画について
3. その他

平成15年度（2003.4－2004.3）

平塚市美術館年報

編集・発行 平塚市美術館
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3
Tel. 0463-35-2111

印 刷 神奈川印刷株式会社
〒254-0042 平塚市明石町3-6
Tel. 0463-22-3344

平成16年3月31日発行